日本藻類学会第 39 回大会
福岡 2015

学会会長　田中 次郎
大会会長　川口 栄男

九州大学箱崎キャンパス
（〒 812-8581　福岡市東区箱崎 6-10-1）
2015 年 3 月 20 日（金）～ 25 日（水）

主催：日本藻類学会　共催：九州大学大学院農学研究院

1. 会場までの交通・宿泊

（1）会場までの交通（図 1）

- 福岡空港から：地下鉄空港線（どこ行きでも構わない）に乗車し「中洲川端駅」で下車。地下鉄箱崎線（貝塚行き）に乗り換えて「箱崎九大前駅」で下車。徒歩 7 分。※ 次駅「貝塚駅（終点）」で下車した場合でも徒歩 7 分程度で到着します。
- JR 博多駅から：JR 鹿児島本線「箱崎駅」で下車。徒歩 15 分。もしくは，「（地下鉄）博多駅」から地下鉄空港線（中洲川端駅下車），地下鉄箱崎線（貝塚行き）を乗り継いで「箱崎九大前駅」で下車。徒歩 7 分。
- 西鉄:「西鉄福岡（天神）駅」で下車。地下鉄「天神駅」から地下鉄箱崎線（貝塚行き）に乗車し「箱崎九大前駅」で下車。徒歩 7 分。
- 高速バス:「天神バスセンター」で下車。地下鉄「天神駅」から地下鉄箱崎線（貝塚行き）に乗車し「箱崎九大前駅」で下車。徒歩 7 分。
- なお，乗用車でのご来場はご遠慮ください。

（2）宿泊

会場の九州大学箱崎キャンパス周辺には宿泊施設がほとんどありませんが，大会実行委員会よりホテル等の斡旋は行いません。各自でお調べいただき，手配をお願いいたします。また，福岡市内ホテルの客室稼働率は高い傾向にあり，大会直前に予約しても宿泊が確保できないことも予想されます。できるだけ早めに予約されることをお勧めします。

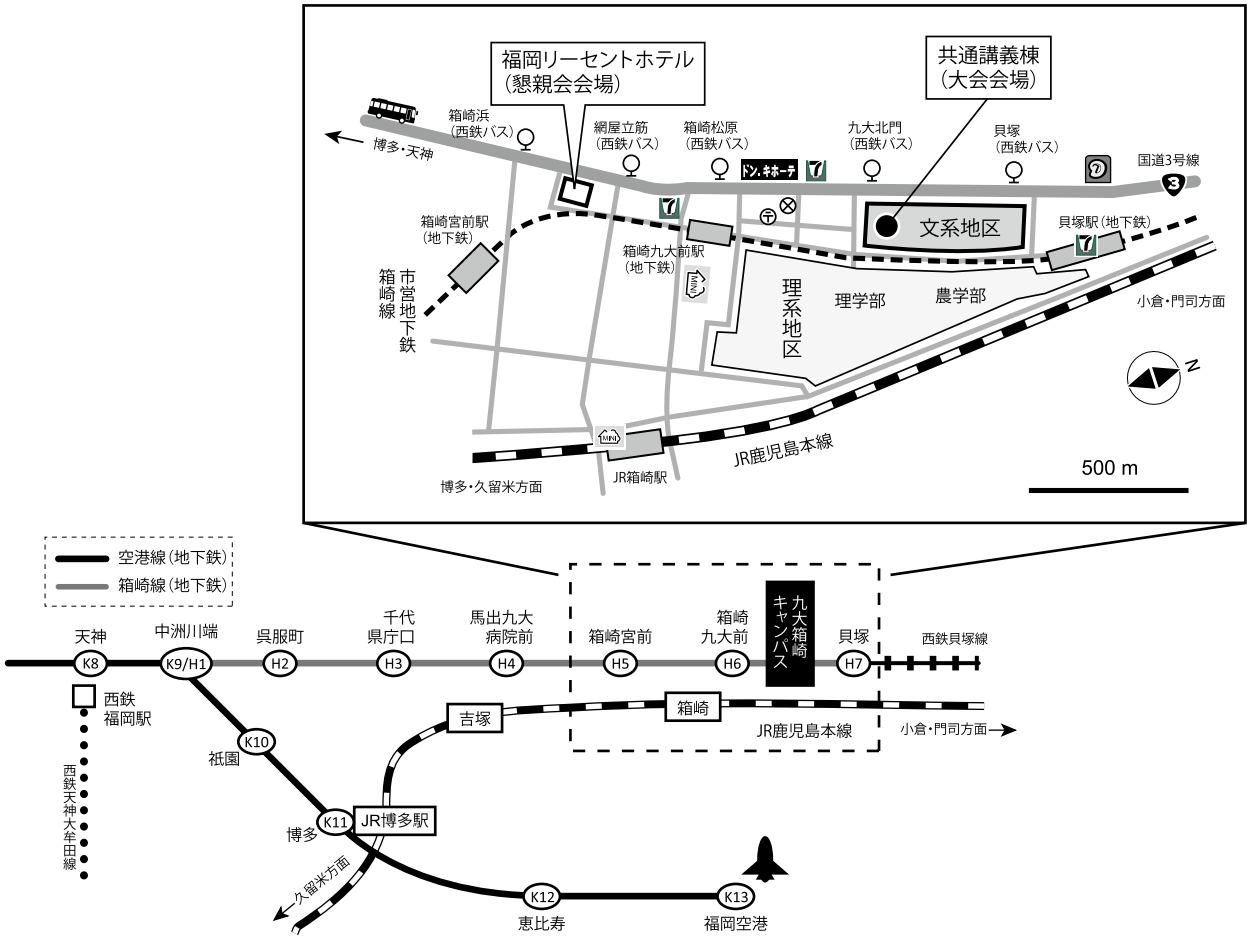


図 1　大会会場・懇親会会場へのアクセス

2. 会場（図 1, 2, 3）

編集委員会・評議員会：九州大学箱崎キャンパス（文系地区）共通講義棟 206 教室
大会：九州大学箱崎キャンパス（文系地区）共通講義棟 1 ～ 3 階
総会：九州大学箱崎キャンパス（文系地区）共通講義棟 302 教室
懇親会：福岡リーセントホテル（**図 1**）
藻類学ワークショップ I：九州大学箱崎キャンパス（文系地区）共通講義棟 204 教室
公開特別講演会：九州大学箱崎キャンパス（文系地区）共通講義棟 302 教室
ミニシンポジウム：九州大学箱崎キャンパス（文系地区）共通講義棟 301 教室

その他の会場

藻類学ワークショップII：九州大学大学院農学研究院附属水産実験所（福岡県福津市津屋崎 4-46-24）

レクリエーション：名島運動公園テニスコート（福岡県福岡市東区名島 2-43）

図２　大会会場周辺図（九州大学・箱崎キャンパス文系地区）

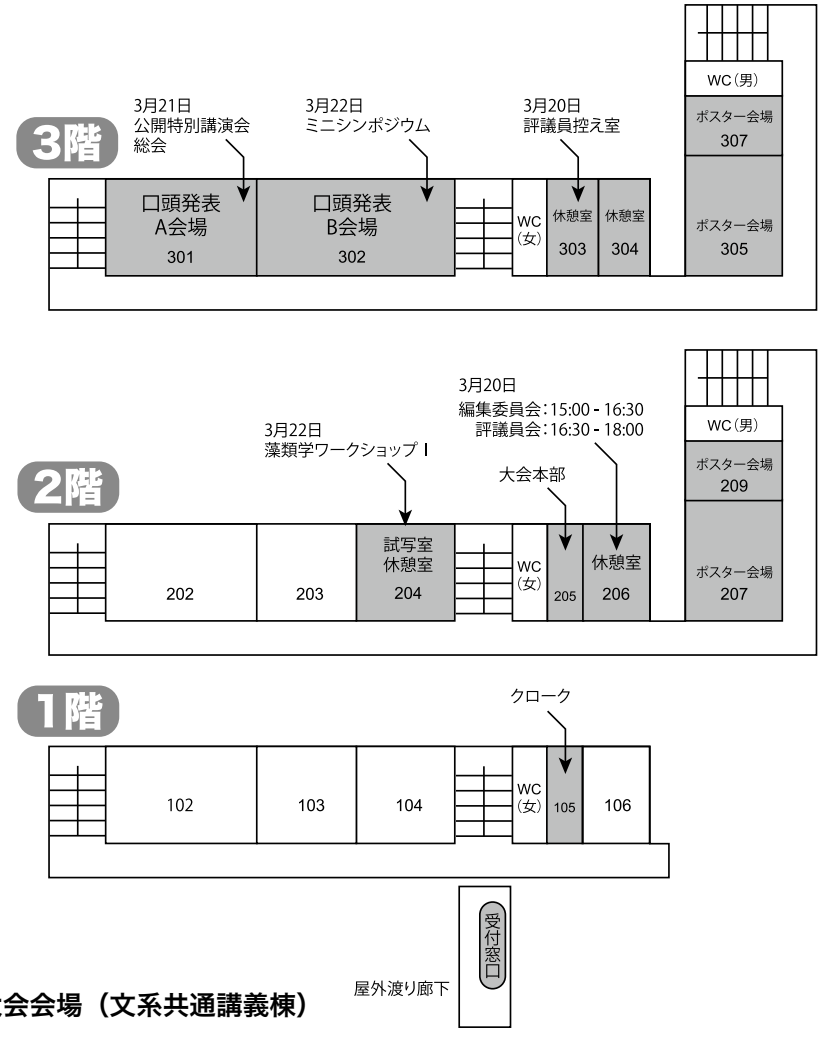


図３　大会会場（文系共通講義棟）

3. 日程

2015 年 3 月 20 日（金）
15:00–16:30　編集委員会【共通講義棟 206 教室】※ 評議員控え室 303 教室
16:30–18:00　評議員会【同上】
2015 年 3 月 21 日（土）
9:00–12:20　口頭発表【共通講義棟 301 教室（A 会場）・302 教室（B 会場）】
13:20–14:20　ポスター発表（奇数番号）【共通講義棟 207・209・305・307 教室】
14:30–15:45　口頭発表【A 会場・B 会場】
15:50–16:50　公開特別講演会【B 会場】
17:00–18:00　総会【B 会場】
18:45–20:45　懇親会【福岡リーセントホテル】
2015 年 3 月 22 日（日）
9:00–12:20　口頭発表【A 会場・B 会場】
13:20–14:20　ポスター発表（偶数番号）【共通講義棟 207・209・305・307 教室】
14:30–15:45　口頭発表【A 会場・B 会場】
14:30–17:00　藻類学ワークショップⅠ【共通講義棟 204 教室】
15:50–18:00　ミニシンポジウム【A 会場】
2015 年 3 月 23 日（月）～ 3 月 25 日（水）（ただし 25 日は希望者のみ）
9:00–　藻類学ワークショップⅡ【九州大学大学院農学研究院附属水産実験所】

※大会期間中は，大学構内の食堂が営業しておりません。ご注意ください。

4. 参加受付（共通講義棟渡り廊下※；図 3）

受付時間：3 月 20 日（金）　14:00–17:00
3 月 21 日（土）　8:00–17:00
3 月 22 日（日）　8:30–15:00
当日参加申込を受け付けます。大会参加費：6,000 円（学生 4,000 円），懇親会費 6,000 円（学生 4,000 円）。
※受付場所は建物入り口渡り廊下を予定していますが，当日は当該大会以外にも他団体（複数）が文系講義棟を利用予定のため，場合によっては受付場所が変更となることがあります。

5. クローク（共通講義 1 階 105 教室；図 3）

以下の時間，荷物（ただし，貴重品は除く）をお預かりします。
3 月 21 日（土）8:00–18:30
3 月 22 日（日）8:30–18:30

6. 編集委員会および評議員会

編集委員会：3 月 20 日（金）　15:00–16:30
評 議 員 会：　同　16:30–18:00
会場：九州大学・箱崎キャンパス（文系地区）【共通講義棟 2 階 206 教室】※ 評議員控え室 3 階 303 教室（**図 3**）
連絡先：TEL: 092-642-2893（栗原）

7. 発表形式

（1）口頭発表

時間：発表 12 分，質疑応答 3 分です。（1 鈴 10 分，2 鈴 12 分，3 鈴 15 分）
機器：発表者のパソコンにつないだ液晶プロジェクター（スクリーン 1 枚）で発表していただきます。各自でパソコンをご持参ください。
・パソコンは切替器のミニ Dsub15 ピン外部出力コネクターを介して，液晶プロジェクターと接続されます。多くのパソコンはこのコネクターで接続できますが，アップル社製のように特殊な接続アダプター，あるいは DVI や HDMI 接続端子しか持たないパソコンを使用する場合は，各自で接続アダプター，変換アダプター等をご準備ください。
・パソコンのバッテリーだけでは液晶プロジェクターに出力できない場合がありますので，必ずパソコンに電源をとるよう，ケーブルをご用意願います。
・万一に備え，発表用ファイルをコピーした USB メモリをお持ち下さい。発表用ファイルに静止画，動画，グラフ等のデータをリンクさせている場合は，そのデータも USB メモリに保存して下さい。
・ご自分のパソコンを用意できない方は，あらかじめ準備委員会にご相談ください。

次演者の待機：次演者は次演者席で，パソコンに電源をとり，OS を立ち上げて下さい。切替器の空いているラインにパソコンを接続して待機して下さい。

・前演者が終わり次第, 次演者はご自身で切替器のスイッチを切り替えます。パソコンのミラーリング（ディスプレーとプロジェクター両方への出力，映像出力の切替コマンドを使用）の操作はスイッチの切替後に行って下さい。切替前ではミラーリングできない場合があります。

事前の動作確認：会場内の試写室（共通講義棟 204 教室；**図 3**）で事前の動作確認をお願いいたします。

（2）ポスター発表

サイズ：都合上，様々な大きさのパネルを使用しますが，概ね縦 170 cm，横 90 cm です。
貼付用具：ピンを大会準備委員会で用意します。
必要記載事項：ポスターの左上に発表番号，表題，氏名（所属）を記して下さい。
構　成：目的，実験（観察）結果，考察，結論について，それぞれ簡潔にまとめた文章をつけて下さい。
写真・図表：それぞれに簡単な説明文を添付して下さい。
フォント・図表サイズ：少し離れた場所からでも判読できるようご配慮願います。
掲示時間：3 月 21 日（土）8:30 から掲示できます。3 月 22 日（日）15:00 までに取り外して下さい。

8. 日本藻類学会第 39 回福岡大会企画　公開特別講演会

「大型藻類の未来ポテンシャルを求めて」

講演者：植田 充美 教授（京都大学大学院農学研究科，JST・CREST）
概要：大型藻類は，国土の狭い日本にとって特徴的な天然資源であり，陸上植物を対象としたこれまでのバイオリファイナリー研究で培われてきた生物工学技術を活用出来る可能性を持つことから，新しいバイオリファイナリー原料として注目されています。本大会では，「細胞表層工学技術（アーミング技術）による生体触媒の創製」や「モノリスナノカラムの開発」などの革新的なご研究で日本の生物工学の第一人者として学界・産業界を牽引されている植田充美・京都大学大学院農学研究科教授をお招きし，日本発の「大型藻類バイオリファナリー」に関する最新の知見と展望についてご講演頂きます。本講演会は，九州大学大学院農学研究院との共催による公開特別講演会です。参加費無料，事前申込不要です。皆様のご参加をお待ちしております。
日時：2015 年 3 月 21 日（土）15:50 – 16:50
会場：九州大学箱崎キャンパス（文系地区）・共通講義棟 3 階 302 教室（B 会場）
進行：川口 栄男（九州大・院農，JST・CREST）
主催：日本藻類学会第 39 回大会実行委員会
共催：九州大学大学院農学研究院
企画責任者：川口 栄男（九州大・院農，JST・CREST），柴田 敏行（三重大・院生物資源，JST・CREST）
※詳細は p. 81 をご覧ください。

9. 藻類学ワークショップ（非会員も対象）

全体世話人：河地 正伸（国立環境研究所）
問い合わせ先：E-mail: kawach9i@nies.go.jp，TEL: 029-850-2345

1）ワークショップ I 「藻類の和名について考える」（事前予約不要）

概要：藻類の和名に関して，海藻やシャジクモ等の大型藻では，日本産の大部分の種で和名がつけられていますが，微細藻の場合限定的です。また藻類分類学の進展に伴って，新しい分類群の設立や新種記載等が行われていますが，学名そのままのカタカナ表記が多いという状況です。藻類和名の歴史，現状，課題等について，複数の講師の方々に話題提供頂き，参加者全員で藻類の和名について，意見交換等を行う場にする予定です。参加費無料，事前申込不要です。どうぞ奮ってご参加ください。
講師:北山 太樹（国立科学博物館), 坂山 英俊（神戸大学), 仲田 崇志（慶応大学), 真山 茂樹（日本学芸大学), 半田 信司（広島県環境保健協会），野崎 久義（東京大学）を予定しています（敬称略，追加の可能性あり）
進行：堀口 健雄（北海道大学），河地 正伸（国立環境研究所）（敬称略）
日時：2015 年 3 月 22 日（日）14:30–17:00
会場：九州大学箱崎キャンパス（文系地区）・共通講義棟 2 階 204 教室
定員：70 名程度（先着順，非会員も対象とします）
問合せ・連絡先：河地 正伸（国立環境研究所）E-mail. kawach9i@nies.go.jp

2)　ワークショップ II 「福岡の藻類採集・観察会」（申込は終了しました）

内容：玄界灘に面した海岸や博多湾内で海藻や微細藻の採集を行った後で，観察・同定を行います。
日時：2015 年 3 月 23 日（月）・24 日（火）
集合場所：九州大学大学院農学研究院附属水産実験所　〒 811-3304　福岡県福津市津屋崎 4-46-24

アクセス：【JR 鹿児島線福間駅まで】箱崎駅で乗車，福間駅下車
【JR 鹿児島線福間駅から】西鉄バス津屋崎橋（もしくは神湊）行き乗車，水産高校前下車，徒歩 1 分（バスは 1 時間に 2 本程度）；あるいは福間駅よりタクシーで 10 分（1,300 円程度）
講師：川口 栄男（九州大学），神谷 充伸（福井県立大学），藤田 大介（東京海洋大学），河地 正伸（国立環境研究所），鈴木 秀和（東京海洋大学），高橋 和也（山形大学・院・理工・博士課程 3 年）（敬称略）
定員：20 名（先着順）
参加費：5,000 円程度（宿泊費・食費・交通費・傭船費等を実費負担，現地で徴収）
責任者・連絡先：栗原 暁（九州大学） Tel. 092-642-2893 E-mail. akuriha@agr.kyushu-u.ac.jp

引き続き，希望者のみを対象に福岡県朝倉市にあるスイゼンジノリ養殖・加工場見学，およびオキチモズクの生育地観察会を実施します。
日時：2015 年 3 月 25 日（水）
ガイド：遠藤 淳（(資）川茸元祖遠藤金川堂代表），飯田 大和（福岡県朝倉市）（敬称略）
出発時刻：午前 8 時頃（水産実験所より車あるいはマイクロバスで移動）
現地出発：午後 1 時頃を予定（福岡空港あるいは博多駅周辺まで送迎予定）
参加費：実費（当日徴収）

10. 日本藻類学会第 39 回福岡大会企画ミニシンポジウム

「大型藻類バイオリファイナリー研究の最新の進捗と将来展望」

講演者：長山 公紀（熊本県水産研究センター，JST・CREST），モリ テツシ（早稲田大学・理工学術院・国際教育セ，JST･CREST）吉川 裕之（大阪大･院工，JST･CREST），田丸 浩（三重大･院生物資源，三重大･生命支援セ，三重大･新産業創生）（敬称略）
日　時：2015 年 3 月 22 日（日）15:50 〜 18:00
場　所：九州大学箱崎キャンパス（文系地区）共通講義棟 301 教室（A 会場）
規格責任者：柴田 敏行（三重大・院生物資源，JST・CREST），川口 栄男（九州大・院農，JST・CREST）
※詳細は，pp. 82–83 をご覧下さい。

11. レクリエーション

藻類学会会員の親睦を深めるため，テニス大会を以下のとおり開催します。
日　時：2015 年 3 月 20 日（金）10:00 〜 16:00
場　所：名島運動公園テニスコート（福岡県福岡市東区名島 2-43）
連絡先：山口 晴代（国立環境研究所） E-mail: yamaguchi.haruyo@nies.go.jp

12. 喫煙場所について

箱崎キャンパスでは，建物内およびその他の場所でも全面禁煙です。喫煙は決められた場所のみでお願いいたします（**図 2** 参照）。

13. 学内 Wi-Fi について

建物内では Wi-Fi 接続ができます。臨時の ID とパスワードを掲示しますので，ご利用ください。

14. 日本藻類学会第 39 回大会準備委員会

川口 栄男, 栗原 暁（九州大学）, 山田 真知子（福岡女子大学）, 島袋 寛盛（瀬戸内海区水産研究所）, 寺田 竜太（鹿児島大学），桑野 和可，Gregory N. Nishihara（長崎大学）

15. 問い合わせ先

〒 812-8581 福岡県福岡市東区箱崎 6-10-1
九州大学大学院農学研究院　水産増殖学分野内
日本藻類学会第 39 回福岡大会実行委員会　栗原 暁
E-mail: jsp2015.fukuoka@gmail.com
TEL: 092-642-2893, FAX: 092-642-3090

日本藻類学会第 39 回大会講演プログラム

3 月 21 日（土）午前の部

9:00 – 12:20 **口頭発表**

	A 会場（301 教室）	B 会場（302 教室）
9:00	**A01** **88 年前の紅藻ヨゴレコナハダからの DNA 抽出と次世代シーケンサを用いた分類** ○鈴木 雅大[1]・瀬川 高弘[2]・秋好 歩美[2]・大槻 涼[3]・栗原 暁[4]・北山 太樹[5]・阿部 剛史[6]・小亀 一弘[7]・野崎 久義[1]（[1]東京大・院理，[2]極地研・新領域融合研究センター，[3]駒澤大・総合教育，[4]九州大・院農，[5]国立科博，[6]北海道大総合博物館，[7]北海道大・院理）	**B01** **珪藻個体群のウイルス感受性は増殖フェーズによって変化するか？** ○外丸 裕司[1]・木村 圭[1,2]（[1]水研セ瀬戸水研，[2]佐賀大・低平地沿岸センター）
9:15	**A02** **近縁な海産・淡水産シオグサの遺伝的多様性と分布パターンの比較** ○丹羽 一夫・吉川 伸哉・神谷 充伸（福井県大・院・海洋生物）	**B02** **珪藻 *Chaetoceros tenuissimus* と DNA/RNA ウイルスの感染特異性** ○木村 圭[1]・外丸 裕司[2]（[1]佐賀大・低平地沿岸センター，[2]水研セ瀬水研）
9:30	**A03** **北米産ツルモ属の系統地理–新たに確認された越境移入–** ○川井 浩史[1]・羽生田 岳昭[1]・T. Mumford[2]・J.R. Waaland[3]（[1]神戸大・内海域セ，[2] Marine Agromics，[3] Univ. Washington）	**B03** **河川一次生産力を基にした役勝川におけるリュウキュウアユの環境収容力の推定** ○阿部 信一郎[1]・井口 恵一朗[2]（[1]茨城大，[2]長崎大）
9:45	**A04** **佐渡島内におけるアカモクの遺伝的構造について** 渡辺 幸平[1]・吉田 友和[2]・○上井 進也[3]（[1]新潟大学・院・自然，[2]新潟県海洋水産研，[3]新潟大学・理）	**B04** **ラビリンチュラ類の定点調査から明らかになった系統群ごとの季節的消長と海洋生態系への影響** ○上田 真由美[1,2]・野村 友佳[3]・土井 耕作[1,2]・柿本 結生[3]・中嶋 昌紀[4]・本多 大輔[2,3]（[1]甲南大・院・自然科学，[2]甲南大・統合バイオ研，[3]甲南大・理工・生物，[4]大阪環農水研）
10:00	**A05** **黒潮流域のホンダワラ２種について** 鯵坂 哲朗（京都大・院・農）	**B05** **有害赤潮鞭毛藻 *Karenia mikimotoi* の増殖における鉄利用能の検討** ○内藤 佳奈子[1]・大西 菜月[1]・紫加田 知幸[2]・坂本 節子[2]（[1]県立広島大・生命環境，[2]水研セ・瀬戸内水研）
10:15	**A06** **北西太平洋における石灰藻球（Rhodolith）研究** ○加藤 亜記[1]・馬場 将輔[2]・松田 伸也[3]・井龍 康文[4]（[1]広島大・生物圏，[2]海洋生物環境研究所，[3]琉球大・教育，[4]東北大・理）	**B06** **褐虫藻 *Symbiodinium minutum* のミトコンドリアゲノムの解読** ○將口 栄一・新里 宙也・久田 香奈子・佐藤 矩行（沖縄科学技術大学院大学・マリンゲノミックスユニット）
10:30–10:35	休憩	
10:35	**A07** **宮城県沿岸のアラメ群落における東日本大震災後の変動** ○村岡 大祐[1]・玉置 仁[2]（[1]水研セ・東北水研，[2]石巻専修大学）	**B07** **新奇緑色渦鞭毛藻室蘭株・鶴岡株における葉緑体ゲノム比較解析** ○森田 幸之介[1]・谷藤 吾朗[1]・中山 卓郎[2]・神川 龍馬[3]・皿井 千裕[4]・高橋 和也[4]・岩滝 光儀[5]・稲垣 祐司[1,2]（[1]筑波大・院・生命環境科学，[2]筑波大・計算科学研究セ，[3]京都大・院・地球環境，[4]山形大・院・理工，[5]東京大・アジアセンター）
10:50	**A08** **岩手県吉浜湾舟作海岸の潮間帯海藻群落に対する東日本大震災の影響** ○難波 信由・篠塚 美佐希・加戸 隆介（北里大海洋）	**B08** **新奇緑色渦鞭毛藻類における緑藻遺伝子の網羅的探索–新たなヌクレオモルフゲノムへの示唆** ○中山 卓郎[1]・谷藤 吾朗[2]・神川 龍馬[3]・松尾 恵梨子[2]・皿井 千裕[4]・高橋 和也[4]・岩滝 光儀[5]・稲垣 祐司[1,2]（[1]筑波大・計算セ，[2]筑波大・院・生命環境科学，[3]京都大・院・地球環境，[4]山形大・院・理工，[5]東京大・アジアセンター）
11:05	**A09** **吉野川河口産アオサ属２種の分布・成長特性の比較** ○木下 優太郎[1]・平岡 雅規[2]・團 昭紀[3]（[1]高知大学・院・理，[2]高知大・総研セ，[3]徳島水研）	**B09** **嫌気性ストラメノパイル生物 *Cantina marsupialis* が有するミトコンドリア関連オルガネラの代謝能推定** ○野口 文哉[1,2]・島村 繁[2]・中山 卓郎[3]・矢崎 裕規[3]・橋本 哲男[3]・稲垣 祐司[3]・藤倉克則[1,2]・瀧下 清貴[2]（[1]東京海洋大学，[2]海洋研究開発機構，[3]筑波大学）

11:20 **A10** **広島湾のグリーンタイドにおけるアオサ属２型の季節的遷移と成長特性**
○吉田 吾郎[1]・内村 真之[2]・平岡 雅規[3]（[1]瀬戸内水研，[2]いであ，[3]高知大）

11:35 **A11** **東京湾の青混ぜ海苔に利用されるアオノリ種の同定および人工採苗技術開発に向けた成熟誘導条件**
○島田 裕至[1]・正清 友香[2]・嶌田 智[2]（[1]千葉水総研セ，[2]お茶大・生命科学）

11:50 **A12** **阿寒湖沼群におけるマリモの分布と水環境**
○若菜 勇[1]・田村 由紀[2]・尾山 洋一[3]・山田 浩之[4]（[1]釧路市教委・マリモ研，[2]環境コンサル・株，[3]筑波大・院・生命環境，[4]北大・院・農）

12:05 **A13** **スミレモの和名の起源を訪ねて**
○半田 信司・溝渕 綾（広島県環境保健協会）

B10 **クロララクニオン藻におけるオルガネラ DNA ポリメラーゼ POP の進化**
○渡辺 ありさ[1]・平川 泰久[2]・石田 健一郎[2]（[1]筑波大・院・生命環境，[2]筑波大・生命環境系）

B11 **微細緑藻 *Prototheca wickerhamii* がもつ rRNA 遺伝子群のモザイク構造と転写様式，ならびに新奇エキソソーム様構造物について**
上野 良平（山梨県富士山科学研究所）

B12 **ホモタリックなヒメミカヅキモにおける *CpMinus1* 相同遺伝子の機能解析**
○土金 勇樹[1]・横山 佳菜[1]・鈴木 穣[2]・西山 智明[3]・関本 弘之[1]（[1]日本女子大・理，[2]東大・院・新領域，[3]金沢大・学際）

B13 **アオサ藻綱ヒラアオノリのゲノム解読と雌雄ゲノムの比較による性決定領域の探索**
○山﨑 誠和[1]・鈴木 亮吾[1]・市原 健介[1,2]・豊田 敦[3]・桑野 和可[4]，鈴木 穣[5]・河野 重行[1]（[1]東大・院・新領域，[2]JSPS・PD，[3]遺伝研，[4]長崎大・水産，[5]東大・院・メディカルゲノム）

12:20 – 13:20　昼休み

３月 21 日（土）午後の部

13:20 – 14:20　ポスター発表（奇数番号）（207・209・305・307 教室）

P01 **三重県英虞湾座賀島周辺のヒライボ群落の現存量推定**
○倉島 彰・吉見 和輝・石川 達也・戸瀬 太貴・前川 行幸（三重大・院・生物資源）

P03 **千葉県館山市坂田地先における大型褐藻オオバモクの成長と食害の影響**
○山野 旬郎・川田 健太・早川 雄飛・町田 一真・秋田 晋吾・藤田 大介（東京海洋大学・応用藻類）

P05 **岐阜県美濃市周辺におけるカワモズク類の分布と季節的消長**
丹羽 瞳・○津田 格（岐阜県立森林文化アカデミー）

P07 **千葉県館山市坂田地先におけるクロメの季節的消長**
○川田 健太・山野 旬郎・早川 雄飛・町田 一真・秋田 晋吾・藤田 大介（東京海洋大学・応用藻類）

P09 **高知県東部で分布を拡大する褐藻フタエモク (*Sargassum ilicifolium*) の季節消長**
○小野 兼作[1]・田中 幸記[2]・源平 慶[1]・平岡 雅規[2]（[1]高知大・院・理，[2]高知大・総研セ）

P11 **富士北麓，精進湖におけるフジマリモの分布**
○芹澤 如比古[1,2]・金原 昂平[2]・芹澤（松山）和世[1]（[1]山梨大・教育，[2]山梨大・院・教育）

P13 **A spring marine algal vegetation in the Muan, Jindo and Geomundo coast, Korea**
Su-Yeon Lim・Jae-Hoon Bae・Man-Gu Kang・Tae-Ho Seo・○Jong-Ahm Shin (Department of Aquaculture, College of Fisheries and Ocean Sciences, Chonnam National University, Korea)

P15 **Diversity of *Hydroclathrus* (Scytosiphonaceae, Phaeophyceae) in Japan**
○Wilfred John E. Santiañez・Kazuhiro Kogame (Grad. School Sci., Hokkaido Univ.)

P17 **メタバーコーディング解析による海底礫表面からの海藻種網羅検出の試み**
○髙野 義人[1]・村澤 博基[2]・漆崎 慎吾[3]・安池 元重[1]・田辺 晶史[1]・藤田 大介[2]・長井 敏[1]・桑原 久実[4]（[1]水研セ・中央水研，[2]東京海洋大，[3]アクシオヘリックス（株），[4]水研セ・水工研）

P19 **父島列島から得られた網角海綿に共生する紅藻について**
○北山 太樹[1]・泉 貴人[2]・鈴木 雅大[2]（[1]国立科博，[2]東京大学・院理）

P21 **愛媛県産紅藻エナシカリメニアの分類学的検討**
○柴田 健介[1]・鈴木 雅大[2]・北山 太樹[3]（[1]愛麺（株），[2]東京大・院理，[3]国立科博）

P23 **日本産褐藻クロモ属（ナガマツモ科）の一新種について**
○三好 浩平[1]・羽生田 岳昭[2]・金 聖浩[2]・神谷 充伸[3]・藤田 大介[4]・菊地 則雄[5]・伊藤 知子[6]・川井 浩史[2]（[1]神戸大・院・生物，[2]神戸大・内海域セ，[3]福井県立大・生物資源，[4]海洋大・海洋生物，[5]千葉県博，[6]新潟県・水研）

P25 **愛媛県八幡浜市大島産ヒジキの生長と成熟**
○源平 慶[1]・小野 兼作[1]・田中 幸記[2]・平岡 雅規[2]（[1]高知大・院・理，[2]高知大・総研セ）

P27 **ウップルイノリ糸状体の生育に及ぼす温度，光量，塩分の影響**
馬場 将輔（(公財) 海洋生物環境研究所）

P29 **千葉県館山市坂田地先の潮間帯に設けた裸地でのヒジキの入植と植生の遷移**
○宮川 椋・藤田 大介（海洋大・応用藻類）

P31　シャジクモの遺伝地図構築に向けたジェノタイピングを用いた交配実験系の確立
○宮田 大輔[1]・西山 智明[2]・川井 浩史[3]・坂山 英俊[4]（[1]神戸大・理・生物，[2]金沢大・学際科学セ，[3]神戸大・内海域セ，[4]神戸大・院・理・生物）

P33　GPS 魚探と簡易垂下式ビデオカメラを用いた漁港・周辺藻場のモニタリング手法の検討
○櫻井 克聡[1,3]・桑原 久実[2]・平野 央[3]・秋田 晋吾[1]・早川 雄飛[1]・宮川 椋[1]・藤田 大介[1]（[1]海洋大・応用藻類，[2]（独）水総研セ・水産工学研，[3]山形県水産試験場）

P35　環境省モニタリングサイト 1000 沿岸域調査における藻場のモニタリング　2014 年の成果
○寺田 竜太[1]・川井 浩史[2]・倉島 彰[3]・坂西 芳彦[4]・島袋 寛盛[5]・田中 次郎[6]・村瀬 昇[7]・青木 美鈴[8]・横井 謙一[8]（[1]鹿児島大・水，[2]神戸大・内海域セ，[3]三重大・院・生資，[4]日本海水研，[5]瀬戸水研，[6]海洋大・院・海洋科学，[7]水大校，[8]WIJ）

P37　海産植物は個体群密度が高いほど一次生産量が低い？
○Gregory N. Nishihara[1]・古賀 愛梨沙[2]（[1]長崎大・院・水環・環東シナ海セ，[2]長崎大・水産）

P39　鹿児島産ハナヤナギとマクリの光合成に対する光と温度の影響
○吉里 敬祐[1]・Gregory N. Nishihara[2]・寺田 竜太[1]（[1]鹿児島大・水，[2]長崎大・院・水環・環東シナ海セ）

P41　鹿児島に生育するヒジキの光合成活性に対する乾燥の影響
○國分 翔伍[1]・Gregory N. Nishihara[2]・寺田 竜太[1]（[1]鹿児島大・水，[2]長崎大・院・水環・環東シナ海セ）

P43　水分条件がイシクラゲの成長に与える影響
川口 健一[1]・小森 一貴[1]・大門 且宗[2]・木村 更那[2]・阪本 萌乃佳[2]・中川 知毅[2]・中澤 和也[2]・菱田 愛里[2]・藤澤 愛[2]・渕上 利香[2]（[1]滋賀県立守山高等学校・教諭，[2]滋賀県立守山高校・2 年生）

P45　西太平洋沿岸に分布する無殻渦鞭毛藻 *Amphidinium* 属 53 株の形態と系統
○笹井 理美[1]・高橋 和也[1]・岩滝 光儀[2]（[1]山形大・院・理工，[2]東京大・アジアセンター）

P47　2-MIB を産生する藍藻の新種 *Pseudanabaena foetida*
○新山 優子[1]・辻 彰洋[1]・一瀬 諭[2]（[1]国立科学博物館植物研究部，[2]琵琶湖環境科学研究センター）

P49　葉上生の気生藻類 *Phycopeltis*（スミレモ科，アオサ藻綱）の新たな生活型
○溝渕 綾[1]・半田 信司[1]・正田 いずみ[2]・中原 - 坪田 美保[3]・坪田 博美[2]（[1]広島県環境保健協会，[2]広島大・院・理，[3]千葉中央博・共同研究員）

P51　石垣島石西礁湖の水柱に出現する褐虫藻
○山下 洋・鈴木 豪（水産総合研究センター・西海区水産研究所）

P53　ラビリンチュラ類による珪藻 *Skeletonema* からの栄養摂取
○浜本 洋子[1]・本多 大輔[2,3]（[1]甲南大・院・自然科学，[2]甲南大・理工・生物，[3]甲南大・統合バイオ研）

P55　地衣群落レベルにおける共生藻類の多様性と分布パターン
○池田 彬人・堀口 健雄（北大・院理・自然史）

P57　混合栄養性プロティストによる微細藻類の捕食に伴うクロロフィルの無毒化代謝
○丸山 萌[1]・岡島 圭佑[1]・山口 愛果[2]・柏山 祐一郎[1,3]（[1]福井工大・環境生命化学科，[2]神戸大・自然科学系先端融合，[3]JST・さきがけ）

P59　Comparison of planktonic microalgae growth using LED lights
○Man-Gu Kang・Jae-Hoon Bae・Kyung-Dong Go・Su-Yeon Lim・Hui-Jong Chung・Jong-Ahm Shin (Department of Aquaculture, College of Fisheries and Ocean Sciences, Chonnam National University, Korea)

P61　ミドリゾウリムシに共生するクロレラの細胞壁の解析
○松元 里樹・洲崎 敏伸（神戸大・院理・生物）

P63　二分裂型 *Stichococcus bacillaris* が形成する糸状体の伸長と断片化
○山本 真紀[1]・半田 信司[2]・河野 重行[3]（[1]専修大・自然科学研，[2]広島県環境保健協会，[3]東大・院・新領域・先端生命）

P65　南大洋インド洋セクターにおける海氷中から得た浮遊珪藻 *Fragilariopsis* 属の形態学的研究
○滝本 彩佳[1]・鈴木 秀和[1]・小島 本葉[2]・茂木 正人[3]・小達 恒夫[4]・南雲 保[5]・田中 次郎[1]（[1]海洋大・院・藻類，[2]総研大，[3]海洋大・海洋生物・極地研，[4]極地研・総研大，[5]日歯大・生物）

P67　渦鞭毛藻類 *Nusuttodinium* spp. における盗葉緑体拡大とクリプト藻核保持との関連
○大沼 亮・堀口 健雄（北大・院理・自然史）

P69　ミルイロスミレモ（スミレモ科，アオサ藻綱）の隔壁形成－独自の分裂様式による原形質連絡の獲得－
○正田 いずみ[1]・半田 信司[2]・嶋村 正樹[1]・坪田 博美[1]（[1]広島大・院・理，[2]広島県環境保健協会）

P71　新規オイル生産藻類 *Botryococcus braunii* - モドキ（MDK）の細胞学的な観察と遺伝子解析
○黒田 珠美[1]・渋市 祐馬[1]・淺野 貴志[1]・長尾 修平[1]・川瀬 健志[3]・榎本 ゆう子[1,2]・榎本 平[1,2,3]（[1]神戸大・人間発達環境学研，[2]G&GT 社，[3]神戸大・発達科学）

P73　シアノバクテリア *Synechocystis* sp. PCC 6803 のリン，ヒ素取り込み
○室田 知里・辻下 真貴・藤原 祥子・都筑 幹夫（東京薬科大学生命科学部・環境応答植物学研究室）

P75　微細藻類のクロレラの脂質生産量はフローサイトメーターを使って定量できるか？
○角井 今日子・河村 耕史・古崎 康哲・石川 宗孝（大阪工業大学工学部環境工学科）

P77　*Botryococcus braunii* 由来の *rbcS* 遺伝子プロモーターを用いた遺伝子発現ベクターの開発
○渋市 祐馬[1]・淺野 貴志[1]・黒田 珠美[1]・長尾 修平[1]・川瀬 健志[3]・榎本 ゆう子[1,2]・榎本 平[1,2,3]（[1]神戸大・人間発達環境学研，[2]G&GT 社，[3]神戸大・発達科学）

P79　未利用藻類の高度利用を基盤とする培養型次世代水産業の創出に向けた研究開発における国立環境研究所の取り組み
○河地 正伸[1]・石原 賢司[2]（[1]国立環境研究所，[2]中央水産研究所）

14:30 – 15:45 **口頭発表**

	A 会場（301 教室）	B 会場（302 教室）
14:30	**A14** **与論島産シマチスジノリの驚くべき生育環境と光合成に対する光，温度の影響** ○寺田 竜太[1]・渡邉 裕基[1]・藤本 みどり[1]・畳谷 伊織[1]・國分 翔伍[1]・Gregory N. Nishihara[2]（[1]鹿児島大・水，[2]長崎大・院・水環・環東シナ海セ）	**B14** **クロレラの重イオンビーム照射による突然変異誘導と屋外大量培養株の作出** ○竹下 毅[1]・山下 雄一[1]・大田 修平[1,3]・山崎 誠和[1,3]・大島 健志朗[2,3]・服部 正平[2,3]・風間 裕介[4]・阿部 知子[4]・河野 重行[1,3]（[1]東大・院・新領域・先端生命，[2]東大・院・新領域・付属オーミクス情報センター，[3]JST-CREST，[4]理化学研究所・仁科加速器研究センター）
14:45	**A15** **スサビノリ養殖品種の光合成に対する光と温度の影響** ○渡邉 裕基[1]・川村 嘉応[2]・三根 崇幸[2]・Gregory N. Nishihara[3]・寺田 竜太[1]（[1]鹿児島大・水，[2]佐賀有明水振セ，[3]長崎大・院・水環・環東シナ海セ）	**B15** **独立栄養下での *Chlamydomonas reinhardtii* の窒素栄養欠乏によるメタボローム変化** ○伊藤 卓朗[1,2,3]・曽我 朋義[1,2]・冨田 勝[1,2]（[1]慶大・先端生命研，[2]同・政策メディア・先端生命，[3]JST・さきがけ）
15:00	**A16** **藻場の溶存酸素濃度と光合成速度の日周リズム** ○才津 真子[1]・寺田 竜太[2]・Gregory N. Nishihara[3]（[1]長崎大・水，[2]鹿児島大・水，[3]長崎大・院・水環・環東シナ海セ）	**B16** **コヒーレントアンチストークスラマンによる *Aurantiochytrium* sp. 18W-13a の細胞内脂質解析** 石塚 圭[1]・瀬川 尋貴[2]・小出 昌弘[3]・○吉田 昌樹[3]・渡邉 信[3]・加納 英明[1]（[1]筑波大・院・数理物質，[2]東大院・理，[3]筑波大・院・生命環境）
15:15	**A17** **Developing sea vegetable aquaculture in Maine** ○Susan H. Brawley[1]・Sarah Redmond[2]・Charlotte C. Quigley[1]・Geneva York[1]・N. P. Brown[2]・Stephen Eddy[2]・Nicolas Blouin[3] ([1] School Mar. Sci., Univ. Maine, USA,[2] Maine Sea Grant, USA, [3] Center for Cooperative Aquaculture Research (CCAR), Univ. Maine, USA)	**B17** **ボトリオコッカス *Botryococcus braunii* 由来“榎本藻”への遺伝子導入：「rbcS 遺伝子プロモーターベクター（pBbrbcS vector）の開発と利用」** ○榎本 平[1,2,3]・渋市 祐馬[1]・淺野 貴志[1]・川瀬 健志[3]・黒田 珠美[1]・長尾 修平[1]・榎本 ゆう子[1,2]（[1]神戸大・人間発達環境学研，[2]G&GT 社，[3]神戸大・発達科学）
15:30	**A18** **全国 6 産地の養殖ワカメの形態と栄養塩吸収特性の比較** ○佐藤 陽一[1,2,3]・平野 智也[3,4]・二羽 恭介[5]・村上 素子[3]・鈴木 健[1]・伊藤 泰[1]・阿部 知子[3]・河野 重行[2]（[1]理研食品（株），[2]東大・院・新領域・先端生命，[3]理研・仁科，[4]宮崎大・農，[5]兵庫水技セ）	**B18** **Euglenozoa におけるクロロフィルの無毒化代謝の進化** ○柏山 祐一郎[1,2,3]・川原 純[1]・洲崎 敏伸[4]・中澤 昌美[5]・石川 孝博[6]・丸山 萌[1]・山口 愛果[7]・矢吹 彬憲[8]・宇塚 明洋[9]・宮城島 進也[9]・丸山 柾伸[1]・白鳥 峻志[10]・横山 亜紀子[10]・木下 雄介[3]・民 秋均[3]（[1]福井工大・環境生命，[2]JST・さきがけ，[3]立命館大・生命科学，[4]神戸大院・生物，[5]大阪府大・生命環境，[6]島根大・生物資源，[7]神戸大・自然科学，[8]JAMSTEC・海洋生物，[9]遺伝研・新分野創造，[10]筑波大院・生命環境）

15:50 – 16:50 **公開特別講演会「大型藻類の未来ポテンシャルを求めて」（B 会場）**
植田 充美（京都大学大学院農学研究科，JST・CREST）

17:00 – 18:00 **総会（B 会場）**

18:45 – 20:45 **懇親会（福岡リーセントホテル）**

3 月 22 日（日）午前の部

9:00 – 12:05/12:20 **口頭発表**

	A 会場（301 教室）	B 会場（302 教室）
9:00	**A19** **1 年生大型褐藻アントクメの子嚢斑形成部位と成熟期** ○秋田 晋吾[1]・山田 博一[2]・伊藤 円[2]・藤田 大介[1]（[1]海洋大・院・応用藻類，[2]静岡県水技研・伊豆分場）	**B19** **プラシノ藻 *Pyramimonas parkeae* におけるエジェクトソーム様構造の分子同定：ヒストンと酸性多糖の重合体から成る新奇ポリマー** ○山岸 隆博・川井 浩史（神戸大・内海域セ）
9:15	**A20** **温度勾配に伴う愛媛県宇和海沿岸の藻場植生の変化** ○島袋 寛盛[1]・吉田 吾郎[1]・加藤 亜記[2]・郭 新宇[3]・吉江 直樹[3]・堤 英輔[3]（[1]水研セ・瀬戸内，[2]広島大，[3]愛媛大）	**B20** **雌雄同体群体から精子束が泳ぎでないで自家受精だけするボルボックスの 1 種** ○野崎 久義[1]・植木 紀子[2]・三角 修己[3]（[1]東京大・理，[2]中央大・理工／東工大・資源研，[3]山口大・理）

9:30 **A21** **鳥取県岩美町の鴨ヶ磯地先における藻場の構成種（大型褐藻類）および水平分布**
○原口 展子[1]・和田 年史[2]（[1]鳥取県立博物館，[2]兵庫県立大学）

9:45 **A22** **褐藻ツルアラメの生長と繁殖におよぼす温度の影響**
○戸瀬 太貴・倉島 彰・前川 行幸（三重大・院・生物資源）

10:00 **A23** **ウニケージを用いたガンガゼの密度が海藻植生に与える影響の解明**
○石川 達也・前川 行幸・倉島 彰（三重大・院・生物資源）

10:15 **A24** **褐藻マツモ糸状体の生長様式**
○篠塚 美佐希・難波 信由・平塚 涼介・加戸 隆介（北里大・海洋）

B21 **緑藻 *Chlamydomonas reinhardtii* の配偶子における受精管と眼点の空間配置の解析**
○宮村 新一[1]・秋本 享大[1]・南雲 保[2]（[1]筑波大・生命環境，[2]日本歯科大・生物）

B22 **スピルリナのらせん形状を利用した金属マイクロコイルの構造制御**
○朴 貞子・彌田 智一・鎌田 香織（東工大 JST-ERATO 彌田超集積材料プロジェクト）

B23 **化学物質によるユーグレナ細胞膜の変化と誘電性質との関係**
○陳 林・洲崎 敏伸（神戸大学大学院理学研究科）

B24 ***Chlorella sorokiniana* におけるオートファジーの３次元微細構造学的研究**
○大田 修平[1,2]・吉原 真衣[1]・山崎 誠和[1,2]・南郷 脩史[3]・平田 愛子[1]・河野 重行[1,2]（[1]東大・院・新領域，[2]JST-CREST，[3]ラトックシステムエンジニアリング（株））

10:30–10:35 休憩

10:35 **A25** **褐藻シオミドロ配偶子における走化性について**
○木ノ下 菜々[1]・長里 千香子[2]・本村 泰三[2]（[1]北海道大学・院・環境科学，[2]北海道大学・北方セ）

10:50 **A26** **マイクロインジェクションを用いた褐藻類の原形質連絡における排除分子量の解析**
○長里 千香子[1]・田中 厚子[1]・Christos Katsaros[2]・本村 泰三[1]（1 北大・北方セ，[2]University of Athens）

11:05 **A27** **褐藻アミジグサを用いた創傷ストレス応答の形態学的解析**
○田中 厚子・長里 千香子・本村 泰三（北大・北方セ）

11:20 **A28** **多核緑藻クダネダシグサの傷害治癒における細胞骨格の役割**
○奥澤 大地[1]・関田 諭子[2]・奥田 一雄[2]（[1]高知大学・院・理，[2]高知大・黒潮圏）

11:35 **A29** **巨大細胞性藻類における細胞壁と細胞成長**
○峯 一朗・関田 諭子・奥田 一雄（高知大・院・黒潮圏）

11:50 **A30** **配偶子，胞子及び初期発生体を用いた海藻の凍結保存**
○金井 剛志・桑野 和可（長崎大・院・水環）

B25 **無殻渦鞭毛藻 *Amphidinium* 属の 1 未記載種より観察された細胞鱗片の構造**
○笹井 理美[1]・高橋 和也[1]・岩滝 光儀[2]（[1]山形大・院・理工，[2]東京大・アジアセンター）

B26 **系統関係より推察されるスエシア科渦鞭毛藻の微細構造と生態的特性の進化**
○高橋 和也[1]・岩滝 光儀[2]（[1]山形大・院・理工，[2]東京大・アジアセンター）

B27 **日本沿岸域における珪藻類 *Chaetoceros* 属の形態及び分子系統解析**
○石井 健一郎[1]・神川 龍馬[1]・山口 峰生[2]・山口 晴生[3]・石川 輝[4]・今井 一郎[5]・宮下 英明[1]（[1]京大・地球環境学堂，[2]水研セ・瀬水研，[3]高知大・農，[4]三重大・院生物資源，[5]北大・院水産）

B28 ***Cyanothece* sp. Viet Nam 01 株と *Cyanothece* PCC7822 の細胞外多糖の生産能と化学的性質**
○牧 しづか[1]・兼崎 友[2]・佐藤 晋也[1]・神谷 充伸[1]・大城 香[1]・岡島 麻衣子[3]・金子 達雄[3]・吉川 伸哉[1]（[1]福井県立大学，[2]東京農業大学，[3]北陸先端科学技術大学院大学）

B29 **陸棲ラン藻 *Nostoc commune*（イシクラゲ）における水ストレスタンパク質 A（WspA）の多型**
○坂本 香織[1]・西内 巧[2]・坂本 敏夫[3,4]（[1]金沢工大・バイオ・化学・応用バイオ，[2]金沢大・学際科学実験セ・遺伝子研究施設，[3]金沢大・理工・自然システム，[4]金沢大・自然・生物科学）

B30 **陸棲ラン藻 *Nostoc commune*（イシクラゲ）における化学型の同定**
○坂本 敏夫[1,2]・山場 みなみ[2]・西内 巧[3]・松郷 誠一[1]（[1]金沢大・理工・自然システム，[2]金沢大・自然・生物科学，[3]金沢大・学際科学実験セ・遺伝子研究施設）

12:05 **B31** **藍藻 *Phormidium* は作物の生長を助ける**
○石川 依久子[1]・花田 修賢[2]・大田 修平[3]・杉岡 幸次[4]・宮脇 敦史[1,5]・安部 浩[6]（[1]理化学研究所・光量子工学・生命光学，[2]弘前大学・院・理工学，[3]東京大学・院・新領域創成科学科，[4]理化学研究所・光量子工学，[5]理化学研究所・脳科学総合研究センター，[6]東京農工大学・院・農）

12:20 – 13:20 昼休み

3 月 22 日（日）午後の部

13:20 – 14:20　ポスター発表（偶数番号）（207・209・305・307 教室）

P02　日本海沿岸における褐藻コンブ目の分布変化予測
○坂西 芳彦[1]・川俣 茂[2]・戸瀬 太貴[3]・倉島 彰[3]（[1]日本海区水産研究所，[2]水産工学研究所，[3]三重大学・生物資源）

P04　千葉県館山市坂田地先潮間帯タイドプールに生息するムラサキウニの生態と海藻植生に及ぼす影響
○丁 兆吉・藤田 大介（海洋大・応用藻類研究室）

P06　一般廃棄物溶融スラグ活用「藻場ブロック」の藻場再生環境と栄養塩溶出能
○馬 蕾[1]・秋田 晋吾[1]・小林 美樹[1]・宮谷 寿博[2]・関 勇治[2]・山平 保宏[3]・藤田 大介[1]（[1]海洋大・応用藻類，[2]新日鉄住金エンジニアリング（株），[3]マリンコア）

P08　広島県因島周辺の流れ藻の構成種と季節変化
○山岸 幸正・吉浦 仁啓・吉本 康平・三輪 泰彦（福山大・生命工）

P10　和歌山市加太・田倉崎海岸における海藻相の研究
○丹羽 雅哉・鰺坂 哲朗（京都大・院・農）

P12　愛媛県八幡浜大島におけるクロメ・ホンダワラ類藻場の分布状況
○田中 幸記[1]・小野 兼作[2]・源平 慶[2]・花谷 幹春[3]・平岡 雅規[1]（[1]高知大・総研セ，[2]高知大・院理，[3]大島漁業集落協定）

P14　山口県瀬戸内海および日本海沿岸におけるアマノリ類の分布
○阿部 真比古[1]・村瀬 昇[1]・淺井 健[1]・見越 大次郎[1]・畑間 俊弘[2]・鹿野 陽介[2]・金井 大成[2]（[1]水産大学校，[2]山口県水研セ）

P16　NIES 藻類コレクションにおける絶滅危惧淡水産紅藻類の系統保存
○石本 美和[1]・森 史[1]・湯本 康盛[1]・ノエル マリーエレン[2]・佐藤 真由美[2]・山口 晴代[2]・河地 正伸[2]（[1]（財）地球・人間環境フォーラム，[2]国環研）

P18　生葉上地衣類 *Strigula*（マンジュウゴケ属）に共生するスミレモ類は *Cephaleuros* ではなかった
○中原 - 坪田 美保[1]・半田 信司[2]・正田 いずみ[3]・溝渕 綾[2]・原田 浩[4]・坪田 博美[3]（[1]千葉中央博・共同研究員，[2]広島県環境保健協会，[3]広島大・院・理，[4]千葉中央博）

P20　北日本における紅藻サンゴモ属（*Corallina*）2 種の集団遺伝学的解析
○大津 創[1]・蛭田 眞平[1]・小亀 一弘[1]・馬場 将輔[2]・阿部 剛史[3]・Matthew H. Dick[1]（[1]北大・院・理・自然史，[2]海洋生物環境，[3]北大・総合博物館）

P22　九州・四国沿岸域のアオサ属の種多様性と一新種の発見
○市原 健介[1]・鈴木 亮吾[1]・山﨑 誠和[1]・桑野 和可[2]・河野 重行[1]（[1]東大・新領域，[2]長崎大・水産）

P24　20 年ぶりに発見された *Sargassum bulbiferum* タマエダモクの分類学的検討
○島袋 寛盛[1]・三浦 俊一[2]・吉田 吾郎[1]・小林 由紀[1]・浜口 昌己[1]（[1]水研セ瀬戸内・[2]水圏リ）

P26　愛媛県産大型アマノリの成長特性
○青柳 大輔[1]・平岡 雅規[2]（[1]高知大・理，[2]高知大・総研セ）

P28　福岡県朝倉市甘木におけるオキチモズクの生育環境
○城内 智行[1]・川越 雄介[1]・吉田 忠生[2]・飯田 大和[3]・井上 義勇[3]・今村 吉弘[4]（[1]九環協，[2]北海道大学名誉教授，[3]オキチモズクを見守る会，[4]福岡県朝倉県土整備事務所）

P30　環境 DNA 解析によるコンブ類の微視的配偶体世代の検出
○川本 広基[1]・小杉 知佳[2]・加藤 敏朗[2]・田中 厚子[3]・長里 千香子[3]・本村 泰三[3]（[1]北大・環境，[2]新日鐵住金（株），[3]北大・北方セ）

P32　ベトナム産ホンダワラ類 2 種の光合成に対する光と温度の影響
○松本 和也[1]・國分 翔伍[1]・川口 栄男[2]・Triet Duy Vo[3]・Gregory N. Nishihara[4]・寺田 竜太[1]（[1]鹿児島大・水，[2]九州大・院・農，[3]Nhatrang Institute of Technology Research and Application, Viet Nam，[4]長崎大・院・水環・環東シナ海セ）

P34　異なるアオサ種の環境応答性に関する研究
○中村 方哉[1]・矢部 徹[2]・玉置 雅紀[2]・石井 裕一[3]・有田 康一[2]・中村 雅子[2]・中嶋 信美[1]（[1]筑波大学・生命環境科学研究科，[2]独立行政法人国立環境研究所，[3]東京都環境科学研究所）

P36　大型藻類における haploid/diploid 世代の相対サイズ進化と空間競争
○別所 和博[1]・Sarah P. Otto[2]（[1]The University of British Columbia・海外特別研究員，[2]The University of British Columbia）

P38　山口県山口湾産カイガラアマノリ葉状体の生長と光合成特性
○村瀬 昇[1]・阿部 真比古[1]・洞 将太[1]・畑間 俊弘[2]・鹿野 陽介[2]（[1]水産大学校，[2]山口水研セ）

P40　室蘭産マコンブと館山産アラメの光合成に対する光と温度の影響
○中﨑 好希[1]・堀江 諒[1]・新保 雅弘[1]・松本 和也[1]・京田 祐美[1]・渡邉 裕基[1]・Gregory N. Nishihara[2]・寺田 竜太[1]（[1]鹿児島大・水，[2]長崎大・院・水環・環東シナ海セ）

P42　藍藻に特有の新規 NADP 還元酵素の解析
濱口 朋江・廣田 翔平・○白石 英秋（京大・院・生命）

P44　山形県鶴岡産緑色渦鞭毛藻 TRD132 株の細胞内微細構造
○皿井 千裕[1]・高橋 和也[1]・谷藤 吾朗[2]・中山 卓郎[3]・神川 龍馬[4]・稲垣 祐司[2,3]・石田 健一郎[2]・岩滝 光儀[5]（[1]山形大・院・理工，[2]筑波大・生命環境系，[3]筑波大・計算科学セ，[4]京都大・院・地球環境，[5]東京大・アジアセンター）

P46　スエシア科とボルギエラ科渦鞭毛藻の中間に位置する海産未記載種 1 種の微細構造
○高橋 和也[1]・和田 実[2]・石松 惇[2]・岩滝 光儀[3]（[1]山形大・院・理工，[2]長崎大・院・水産・環境科学，[3]東京大・アジアセンター）

P48 **A novel benthic dinoflagellate species belonging to the genus *Heterocapsa***
○Pinto Sohail Keegan [1]・Ryuta Terada [2]・Takeo Horiguchi [3] ([1] Grad. School Sci., Hokkaido Univ., [2] Fac. Fish., Kagoshima Univ., [3] Fac. Sci., Hokkaido Univ.)

P50 **Diatom flora and its winter blooming around an urchin barren at Hirasawa, Uchiura Bay, Izu Peninsula**
○Sima Wenchu [1]・Hidekazu Suzuki [1]・Shingo Akita [1]・Hirokazu Yamada [2]・Madoka Ito [2]・Daisuke Fujita [1] ([1] Tokyo University of Marine Science and Technology, [2] Izu Branch, Shizuoka Prefectural Institute of Fisheries)

P52 **西表島で分離されたラビリンチュラ類の季節による系統群の違い**
○土井 耕作 [1,2]・上田 真由美 [1,2]・岩田 いづみ [1,2]・浜本 洋子 [1]・本多 大輔 [2,3]（[1] 甲南大・院・自然科学，[2] 甲南大・統合バイオ研，[3] 甲南大・理工・生物）

P54 **千葉県小湊産紅藻テングサ類の付着珪藻相**
○卜部 隼太 [1]・鈴木 秀和 [1]・南雲 保 [2]・田中 次郎 [1]（[1] 東京海洋大・藻類，[2] 日本歯大・生物）

P56 **北西太平洋表層水における微細藻類の捕食に伴うクロロフィル代謝**
○四本木 彰良 [1]・近藤 竜二 [2]・野牧 秀隆 [3]・柏山 祐一郎 [1,4]（[1] 福井工大・環境生命，[2] 福井県大・海洋生資，[3] JAMSTEC・生物地球化学，[4] JST・さきがけ）

P58 **淡水産アメーバ状生物による微細藻類の捕食行動とクロロフィル代謝の多様性**
○福田 圭祐 [1]・丸山 柾伸 [1]・宇塚 明洋 [2]・宮城島 進也 [2]・柏山 祐一郎 [1,3]（[1] 福井工大・環境生命，[2] 遺伝研・新分野創造，[3] JST・さきがけ）

P60 **淡水，海水の双方で培養可能な微細藻類について**
○高良 俊彦 [1]・Shao-Lun Liu [2]・須田 彰一郎 [3]（[1] 琉大・院・理工，[2] Tunghai 大，[3] 琉大・理）

P62 **パルマ藻 *Triparma laevis* の珪酸質殻構築過程の形態学的解析**
○山田 和正 [1]・桂 大貴 [1]・佐藤 晋也 [1]・神谷 充伸 [1]・一宮 睦雄 [2]・桑田 晃 [3]・長里 千香子 [4]・本村 泰三 [4]・大城 香 [1]・吉川 伸哉 [1]（[1] 福井県大・院・海洋生物，[2] 熊本県大・環境共生，[3] 水研セ・東北水研，[4] 北大・北方セ）

P64 **珪藻の殻を裏打ちする有機層の形態的多様性**
○中村 憲章 [1]・真山 茂樹 [2]・Matthew Julius [3]（[1] 東学大・院・生物，[2] 東学大・生物，[3] St. Cloud State University）

P66 **日本沿岸に出現するメガネケイソウ科 Pleurosigmataceae の形態分類学的研究**
○原 陽太 [1]・鈴木 秀和 [1]・松岡 孝典 [2]・南雲 保 [2]・田中 次郎 [1]（[1] 海洋大・藻類，[2] 日歯大・生物）

P68 **緑藻アミミドロの無性生殖過程におけるオートファジーの動態解析**
○田中 学・幡野 恭子（京大・院・人環）

P70 **有中心粒目太陽虫の細胞表面に存在する珪酸質被殻の構造と形成機構**
○千原 あかね・ソン チホン・洲崎 敏伸（神戸大・理・生物）

P72 **畜産廃棄物を用いた微細藻類バイオマスの生産システム効率化と有効利用**
五味 直哉 [1]・大石 幸靖 [2]・Kseniya FOMICHOVA[1]・○御園生 拓 [1,2]（[1] 山梨大・生命環境，[2] 山梨大・工）

P74 **福井県丹生山地のため池群から分離したオイル産生藻類について**
○加山 基 [1]・柏山 祐一郎 [1,2]（[1] 福井工大・環境生命化学科，[2] JST・さきがけ）

P76 **緑藻 *Chlamydomonas reinhardii* における CO_2 濃度条件と CCM 関連遺伝子の発現の推移**
○淺野 貴志 [1]・渋市 祐馬 [1]・川瀬 健志 [3]・黒田 珠美 [1]・長尾 修平 [1]・榎本 ゆう子 [1,2]・榎本 平 [1,2,3]（[1] 神戸大・人間発達環境学研，[2] G&GT 社，[3] 神戸大・発達科学）

P78 **ミドリゾウリムシによる汚染土壌からのセシウム除去**
○中田 杏子・洲崎 敏伸（神戸大・院理・生物）

P80 **山形市の水田より得られたオイル産生緑藻類**
○仲田 崇志 [1,2]・土田 雄大 [2,3]・伊藤 綺羅 [2,3]・高橋 廉 [2,3]・冨田 勝 [1,2,4]（[1] 慶大・政策メディア・先端生命，[2] 同・先端生命研，[3] 鶴岡中央高校，[4] 慶大・環境情報）

14:30 – 15:45 口頭発表

A 会場（301 教室）

14:30 **A31** **気候学的データと生理学的係数を用いたアマモの繁茂期現存量と生育下限水深の推定**
○本多 正樹 [1]・今村 正裕 [1]・中根 幸則 [1]・長谷川 一幸 [2]・三浦 正治 [2]（[1] 電中研，[2] 海生研）

14:45 **A32** **藻場形成における栄養カスケードの重要性：我が国初の事例研究**
○川俣 茂 [1]・田井野 清也 [2]（[1] 水研セ・水工研，[2] 高知水試）

B 会場（302 教室）

B32 **ハテナ共生藻の細胞内共生化による転写パターンの劇的な変化**
○山口 晴代 [1]・鈴木 重勝 [2]・本郷 裕一 [3]・石田 健一郎 [4]・井上 勲 [4]（[1] 国立環境研究所，[2] 筑波大・院・生命環境，[3] 東工大・生命理工，[4] 筑波大・生命環境）

B33 **グリーンヒドラ―クロレラ共生系における分子相互作用とゲノム進化**
○濱田 麻友子 [1]・新里 宙也 [1]・Ulrich Kürn[2]・佐藤 矩行 [1]・Thomas C.G. Bosch[2]（[1] 沖縄科学技術大学院大学・マリンゲノミクスユニット，[2] Zoological Institute, Kiel University）

15:00 **A33** **水温が海草コアマモの貯蔵炭水化物量に及ぼす影響**
○米山 広高・倉島 彰・前川 行幸（三重大・院・生物資源）

15:15 **A34** **安定同位体標識を用いたアオサ類の多糖の生合成機構の解析**
○椿 俊太郎[1]・西村 裕志[2]・今井 友也[2]・平岡 雅規[3]（[1]高知大学総合研究センター，[2]京都大学生存圏研究所，[3]高知大学海洋生物研究教育施設）

15:30 **A35** **褐藻アラメの摂食阻害物質フロロタンニン濃度・生産速度に対する無機環境の影響**
○遠藤 光・青木 優和・吾妻 行雄（東北大・院・農）

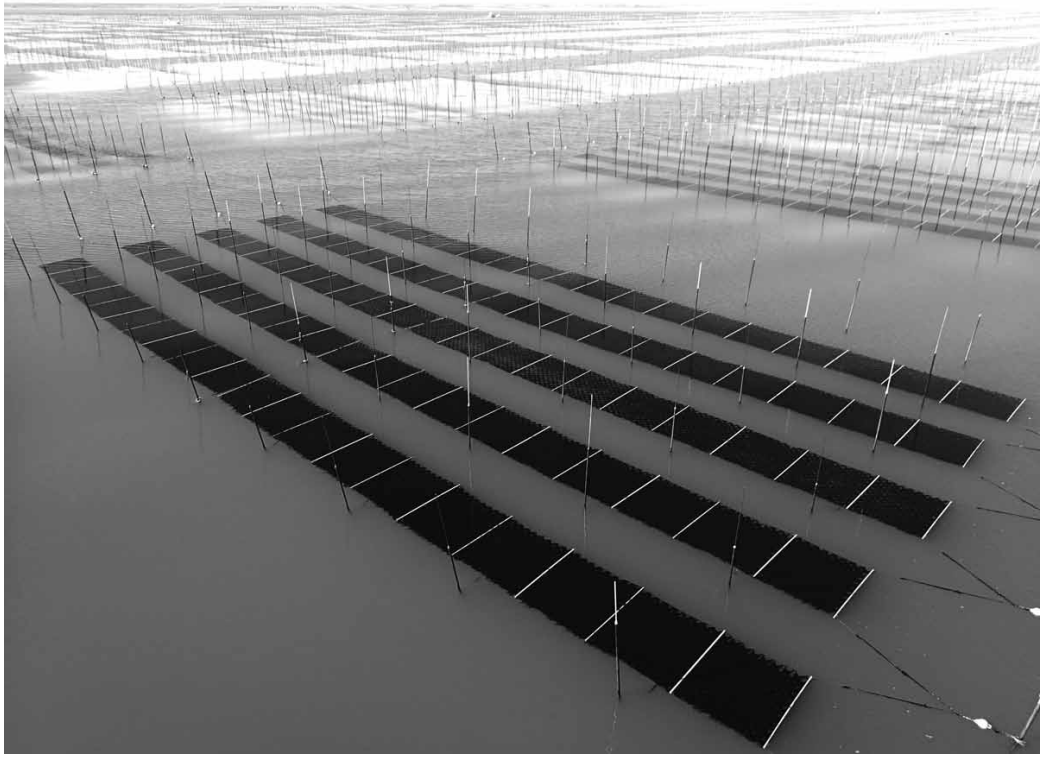
B34 **シェアされる共生藻**
○保科 亮[1]・早川 昌志[2]・楠岡 泰[3]・洲崎 敏伸[2]（[1]長浜バイオ大・バイオサイエンス，[2]神戸大・院理・生物，[3]琵琶湖博物館）

B35 **ミドリゾウリムシを用いた従属栄養状態と混合栄養状態の比較研究**
○早川 昌志・洲崎 敏伸（神戸大・院理・生物）

B36 **ミドリゾウリムシ細胞内共生藻胞膜（PV 膜）のタンパク質解析**
○槇本 純・早川 昌志・洲崎 敏伸（神戸大・院理・生物）

14:30 – 17:00 **藻類学ワークショップ I 「藻類の和名について考える」（204 教室）**

15:50 – 18:00 **日本藻類学会第 39 回大会企画ミニシンポジウム**
「大型藻類バイオリファイナリー研究の最新の進捗と将来展望」（A 会場）



有明海の海苔養殖